

出前講演を開催しています！

埋蔵文化財センターでは、鳥取県の考古学について広く情報発信するため、職員（文化財主事）が各地に出向き、「出前講演」を行っています。各種研修会や地域の歴史学習などでぜひご活用ください。

●テーマの一例紹介

「日本遺産制度とこれからの文化財活用」

〈概要〉

昨年度から認定制度が始まった「日本遺産」。4年後の東京オリンピック開催までに全国で100件の認定が目指されています。鳥取県からは、初年度に「三徳山・三朝温泉」、今年度は「大山」と連続して認定され、本県の歴史と文化財が高く評価されました。

この制度の後押しを受けてこれからの日本の文化財行政がどのように変わろうとしているのかをお話します。

●担当者からひとこと

「日本遺産」制度は、これまで点で保存活用されてきた文化財を面（エリア）に広げてストーリーで結びつけ、その地域の歴史や文化的魅力を海外からの観光客を含め観光資源としても活用しようとするものです。この新しい制度が鳥取県の魅力を高める重要なツールであることをご紹介します！



発掘事業室長
松井 潔

- 出前講演はホームページでもご案内しています。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/28013.htm>
- 講演の実施に当たっては、次の点にご注意ください。
 - ・講師への謝金は不要です。（旅費については要相談）
 - ・会場の準備や会場使用料などの経費負担は、申込者にてお願いします。

遺物紹介

青谷横木遺跡出土木簡

あおやよこぎ
青谷横木遺跡（鳥取市青谷町）から出土した木簡です。

木簡とは、発掘調査で見つかった文字のある木片の総称で、古代には役所の事務作業や荷物の内容を記す付札、メモやまじない等、幅広い用途で使われました。

今回紹介する木簡には「右件税正官稲東九月内進上…」と書かれており、「出挙」に関する内容と考えられます。出挙は春（2～3月）、夏（5月）に行われる貸し付けで、利息（3割または5割）を付けて秋に返納させる制度です。利息は役所の重要な財源となりました。

この木簡は、語順や順序が定まらない部分もあり、実際に使用されたとは考えにくいものですが、出挙の返納に関わる念書に相当する内容です。このことから、当時の出挙に関する事務手続きの実態や、青谷横木遺跡の性格を検討するうえで、とても貴重な発見といえるでしょう。

□ 右件税正官稲東九月内進上…田式枚
□ 税官



フェイスブックもご覧ください！

発掘調査のタイムリーな情報や、遺跡を活用した楽しい取り組みなどを紹介中ですので、ぜひご覧ください。アドレスはこちら ▶ <https://www.facebook.com/tottorimaibun>

Book Reviews

ブックレビュー

埋蔵文化財センターの販売図書の中から、おすすめの本を紹介します。
※販売図書情報はホームページでもご案内しています。
アドレス ▶ <http://www.pref.tottori.lg.jp/247252.htm>

国史跡青谷上寺地遺跡ミニフォーラム 自然への備えと挑戦 —青谷上寺地遺跡の土木技術と現在—

弥生人は自然の脅威にどう立ち向かったのか？ 興味深い知見が満載の必読の1冊！



●A4判／本文42ページ／253g
●価格：370円
（送料：1冊の場合300円）

近年、地震や洪水など大規模な自然災害を目の当たりにして、自然の脅威を改めて感じる人も多いただろう。では、現代人以上に自然の存在が大きかった太古の昔、人々はすさまじい自然の力にどう立ち向かったのだろうか。本書は、大阪府狭山池博物館長・工楽善通氏の特別講演と工楽氏を含む3者による鼎談を通じて、この課題に青谷上寺地遺跡の事例を中心とした土木技術の視点から光を当てている。洪水や飛砂への備えには弥生時代と現代で共通点もあるなど、興味深い知見が満載の考古学ファン必読の1冊！

鳥取県の考古学第6巻 古代・中世・近世 社会と暮らし

古代から近世までの流れをトータルに理解できる 歴史を知る喜びと魅力の詰まった1冊！



●A4判／本文78ページ／296g
●価格：300円
（送料：1冊の場合300円）

考古学について一般向けに分かりやすく解説したシリーズの最終巻。古代から近世までをカバーしている。扱う時間軸が長いだけに、古代における律令国家の成立とその衰退、中世における武士や宗教権力の台頭など、社会的に大きな変化が見られるが、豊富な写真や図解を交えて丁寧に説明されているため、初心者でも時代の流れをトータルに理解できる。また、政治だけでなく、人々の生活やものの生産・流通など特定のテーマごとに読んで面白く、歴史を知る喜びと魅力の詰まった考古学ファン必読の1冊！